

平成 30 年 4 月の解説（府県天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、北日本付近を低気圧や前線が短い周期で通過したため、北日本と東日本日本海側は曇りや雨または雪の日が多くなりました。東日本太平洋側と西日本および沖縄・奄美は、高気圧に覆われて晴れの日が多くなりましたが、6 日から 7 日にかけては低気圧や前線が日本付近を通過したため、全国的に雨が降りました。また、2 日から 4 日は南高北低の気圧配置となって南からの暖かい空気が流れ込み、東・西日本を中心に気温がかなり高くなりました。

中旬は、低気圧と高気圧が交互に日本付近を通過したため、北日本から西日本では天気が数日の周期で変わりました。14 日から 15 日にかけては低気圧が発達しながら日本海から北日本へ進んだ影響で、全国的に天気が崩れ、大雨や大荒れとなった所もありました。沖縄・奄美は、前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多くなりましたが、18 日から 20 日にかけては高気圧に覆われて晴れました。

下旬は、北日本から西日本では、南からの暖かい空気が流れ込みやすく、気温がかなり高くなりました。24 日から 25 日にかけては低気圧が発達しながら日本付近を通過したため、全国的に雨が降り、大雨となった所もありました。

月平均気温は、東・西日本でかなり高く、北日本で高く、沖縄・奄美は平年並でした。月降水量は、東日本日本海側でかなり多く、北・東日本太平洋側と西日本では平年並だった一方、北日本日本海側と沖縄・奄美は少なくなりました。月間日照時間は、西日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側は多く、北日本と東日本日本海側は平年並でした。

【4 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は 90%で例年値（注）より 5 ポイント高く、明後日予報は 89%で例年値より 7 ポイント高くなりました。地方別の適中率では、明日予報は中国地方以外で例年値を上回り、特に北陸地方では例年値よりも 10 ポイント高くなりました。明後日予報はすべての地方で例年値を上回り、特に東北地方、四国地方、沖縄地方では例年値よりも 10～13 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4 小さい 1.5 で、すべての地方で例年値を下回りました。最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.4 小さい 1.2 で、すべての地方で例年値を下回りました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6 月の天気予報の利用にあたって】

例年、6 月は、南西諸島付近に停滞していた梅雨前線が次第に北上して、本州付近に停滞することが多くなります。平年では上旬から中旬頃にかけて、西日本、東日本および東北地方で梅雨入りとなりますが、梅雨入りの時期や梅雨の期間、天候経過などは年によって違いがあります。

梅雨の時期は他の季節に比べ、大雨が発生しやすく、山崩れやがけ崩れ等の土砂災害、浸水害、河川の増水や氾濫などの災害をもたらすことがあります。雨の天気予報が出ているときには、最新の気象情報や、大雨・洪水の警報・注意報などに留意してください。